

九州大学ステークホルダー調査

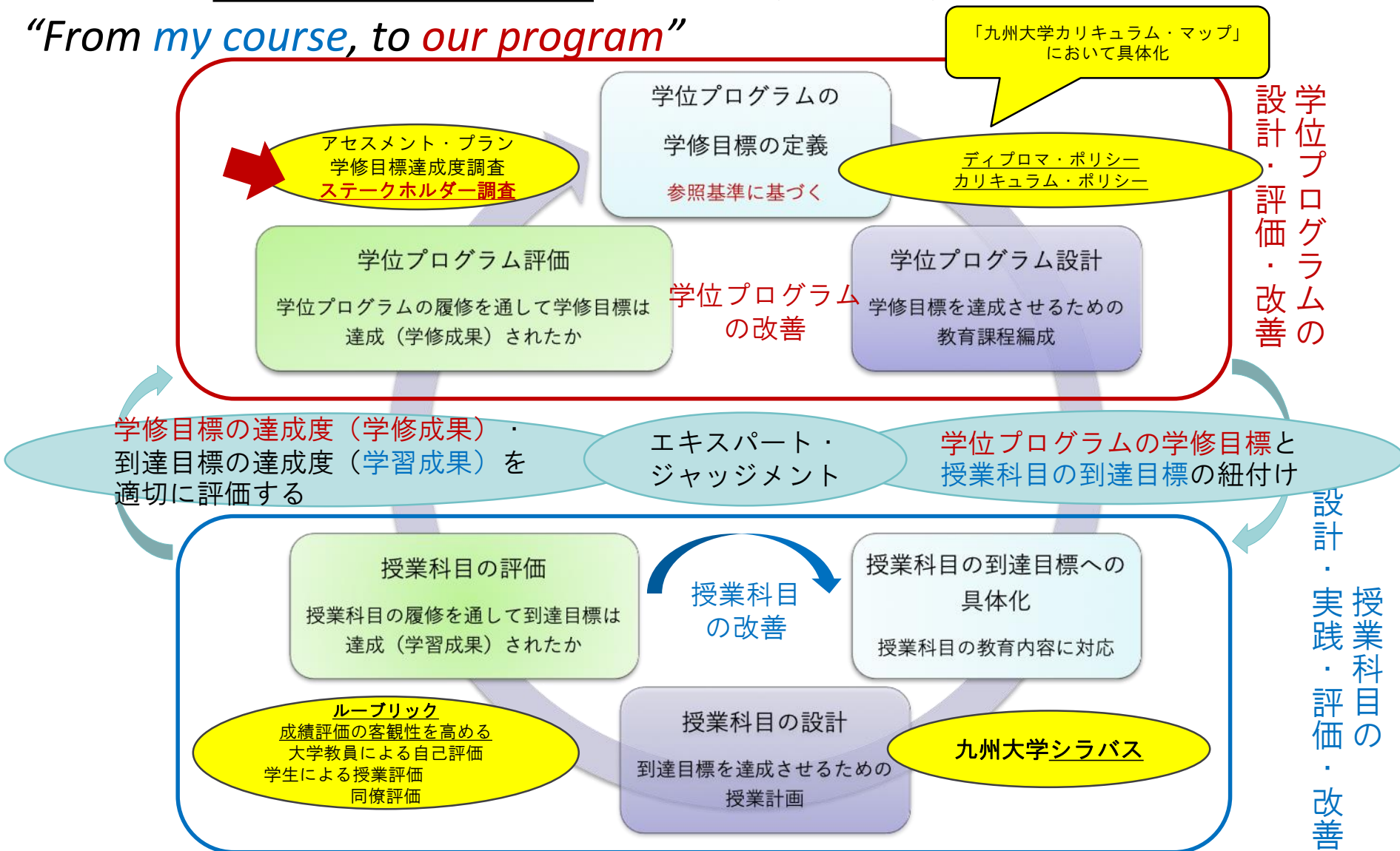
令和4年度卒業・修了生調査
分析結果報告書の概要

未来人材育成機構
評価・教育改善支援部門



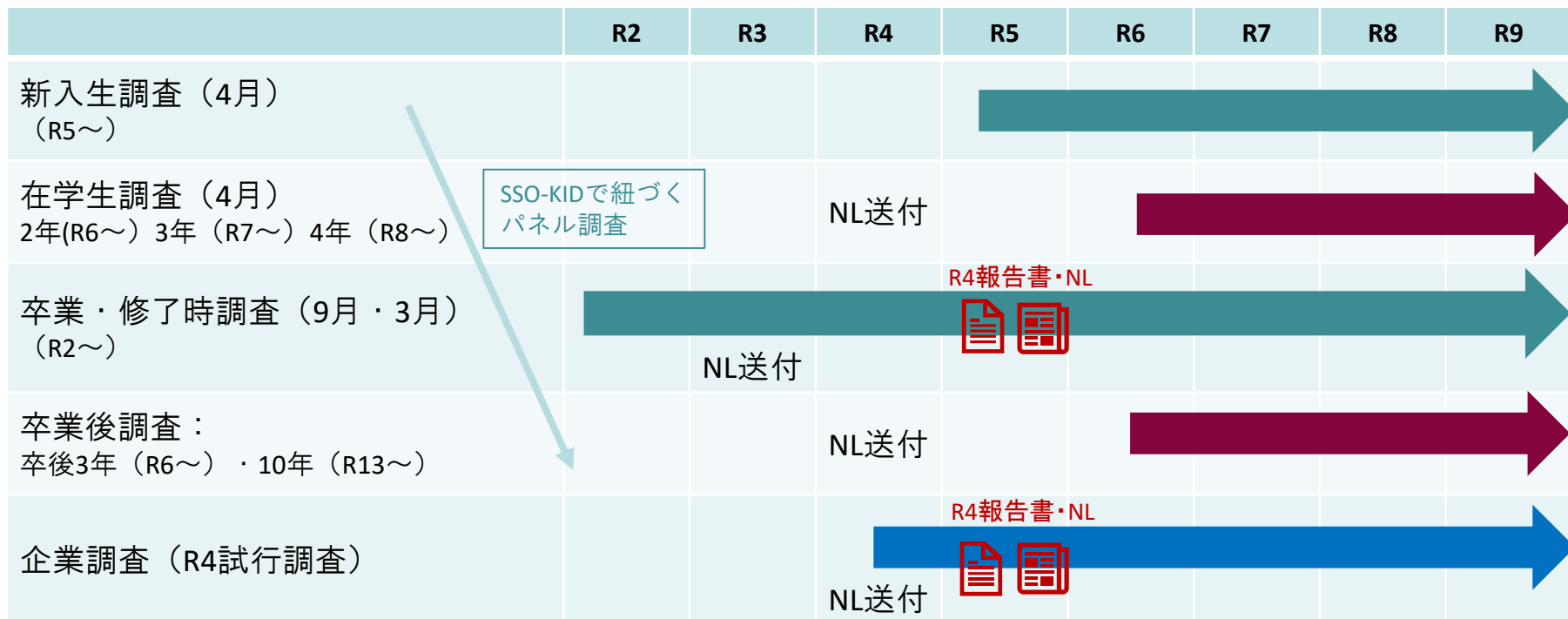
九州大学教学マネジメント枠組み（2018年）

“From my course, to our program”



九州大学ステークホルダー調査 Kyushu University Stakeholder Surveys

<https://mirai.kyushu-u.ac.jp/curriculum/stakeholder/>



情報公開：<https://ueii.kyushu-u.ac.jp/pages/stakeholder.php>

課題：回収率の確保＝「ステークホルダーの声」としての代表性を確保する
調査結果を大学経営に生かすために不可欠の要件

- 1) 学生班によるニュースレターの送付による学生参加・対話
- 2) 学生の成長実感を喚起する（学生ポータル等でのフィードバック）

令和4年度卒業・修了生調査 分析結果報告書の概要



調査の概要

R3からの主な変更点（追加項目）

- ・ 満足度（進路先（自身の就職先・進学先等））
- ・ 今後の大学の在り方（対面授業とオンライン授業の割合）、そのように考える理由

- 質問紙（日英）は、6肢択一式問題7問（49項目）と自由記述式問題3問。回答に要する時間は約5分程度。
 - 学修成果、満足度、授業形態、印象に残った経験、要望・提案。
- 令和4年度（9月・3月）学部・学府卒業・修了生全員を対象に、部局事務室を通して、Web調査（Moodle）への回答を依頼。

年度（月）	課程	回答者 （人）	母集団 （人）	回答率 （%）	備考
令和2年度 （3月）	学部	1,449	2,562	56.6%	
	大学院	707	2,214	31.9%	
令和3年度 （9月、3月）	学士	1,487	2,649	56.1%	共創学部1期生
	修士	648	2,066	31.4%	専門職課程を含む
	博士	114	571	20.0%	
令和4年度 （9月、3月）	学士	555	2,620	21.2%	回答率の減少は、調査方法の変更（卒業式出席調査と独立して実施）によると推測される。
	修士	478	2,023	23.6%	
	博士	102	488	20.9%	

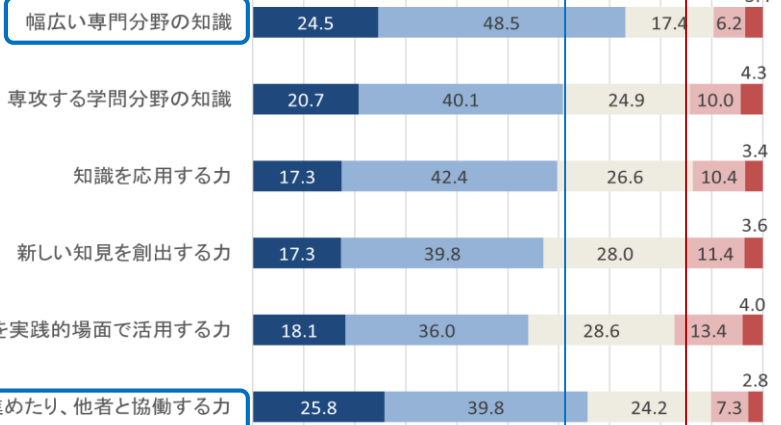
回答者数が10人未満の学部・学府については、個人が特定される恐れがあるため、学部・学府別の集計結果は掲載していない。

学修成果（学部学生）

基幹教育(学部)

60% 15%

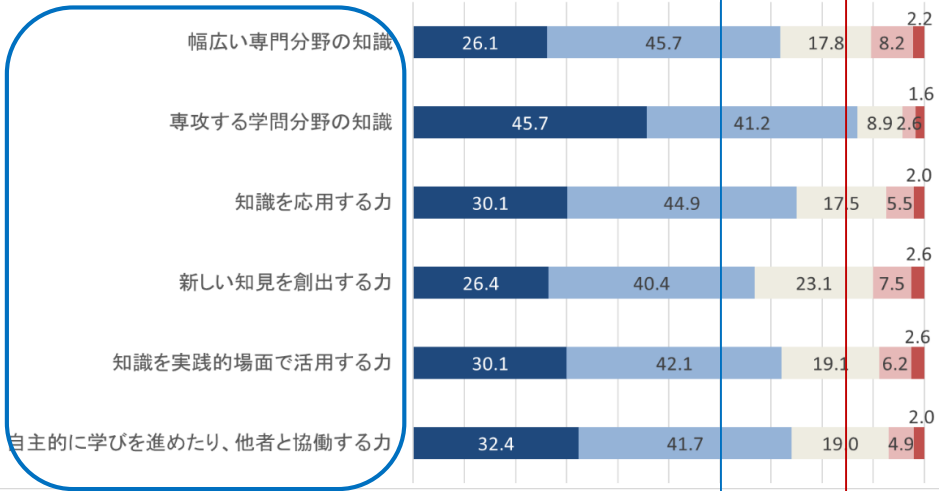
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



専攻教育(学部)

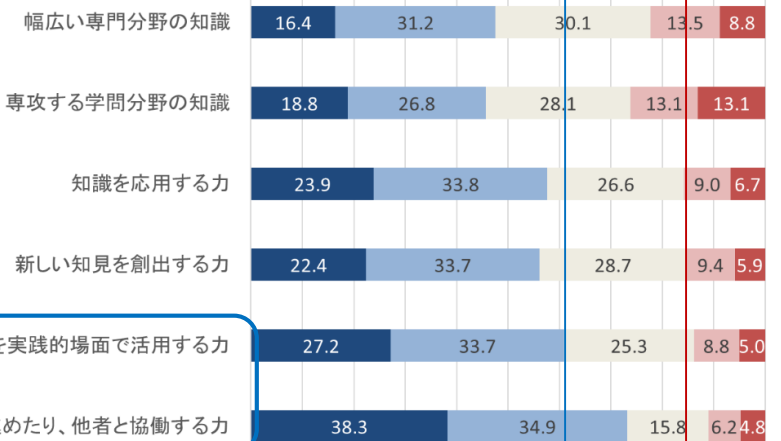
60% 15%

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



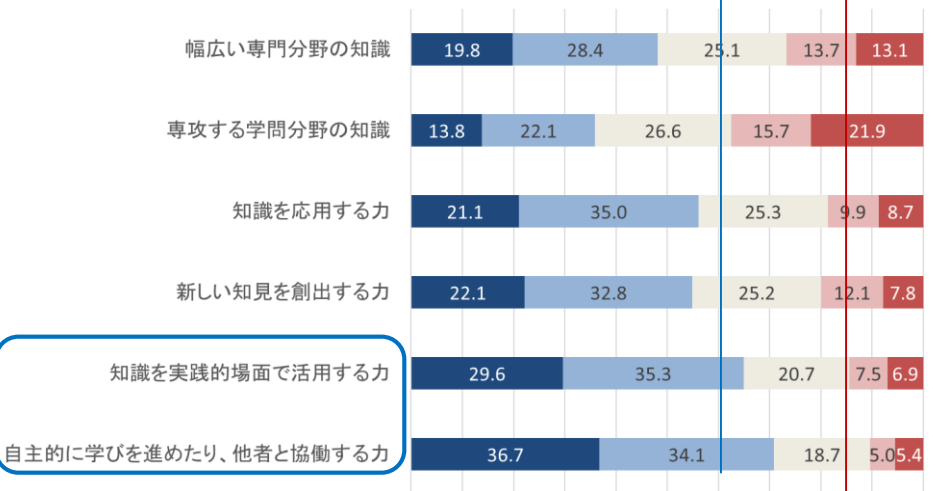
課外活動(学部)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



その他の活動(ボランティア・アルバイト等)(学部)

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



■ 大いに身に付いた ■ 身に付いた ■ どちらとも言えない ■ あまり身に付かなかった ■ 身に付かなかった

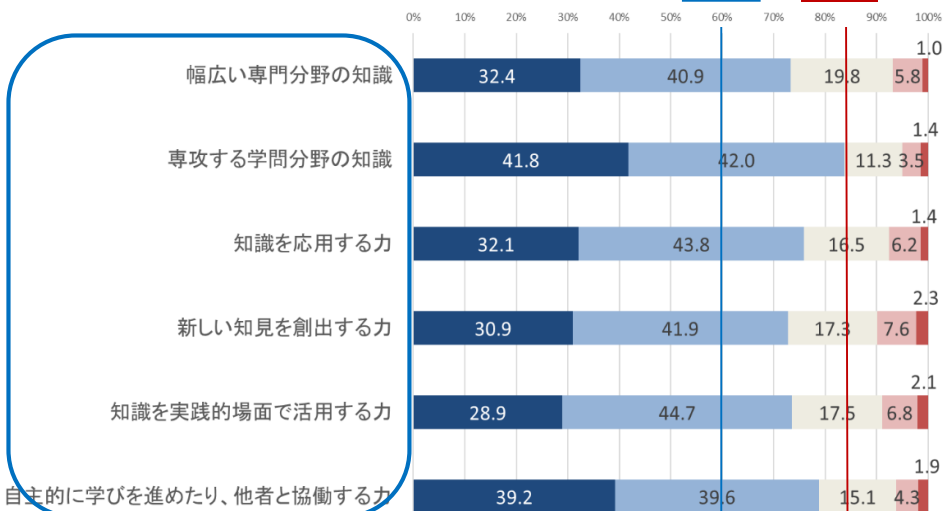
■ 大いに身に付いた ■ 身に付いた ■ どちらとも言えない ■ あまり身に付かなかった ■ 身に付かなかった

肯定的に解答した
学生は減少

学修成果（大学院生）

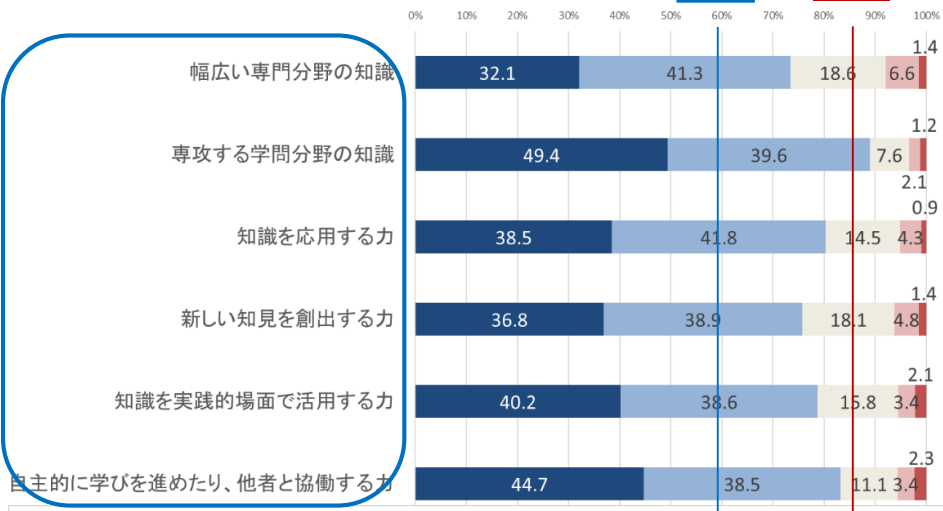
学部での専攻教育(大学院)

60% 15%

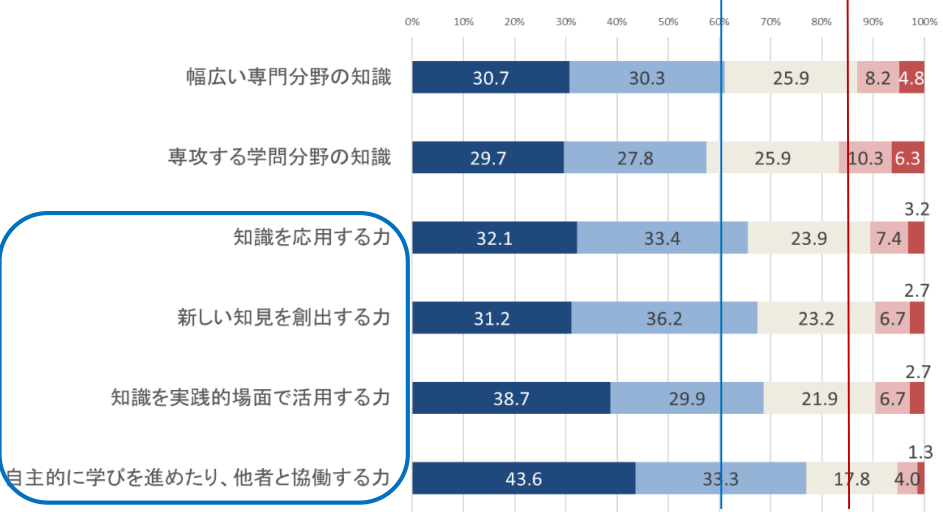


専攻教育(大学院)

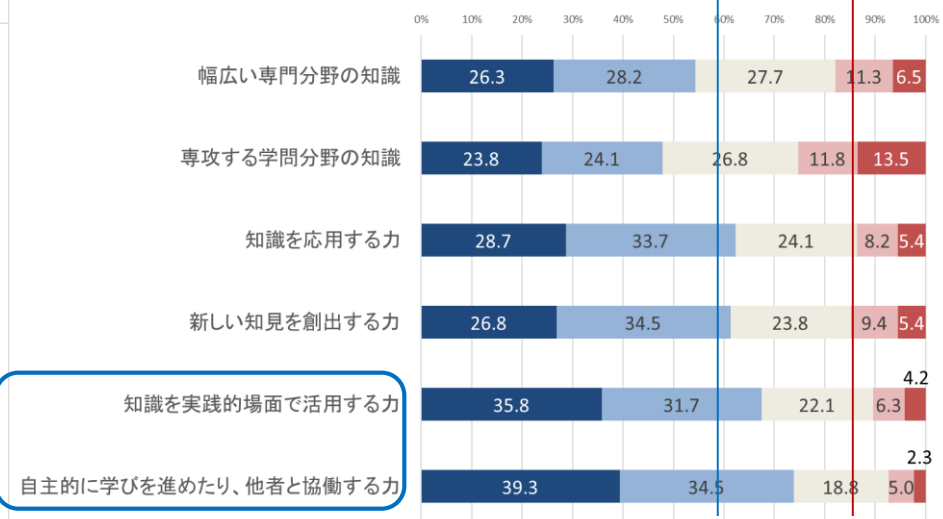
60% 15%



課外活動(大学院)



その他の活動(ボランティア・アルバイト等)(大学院)



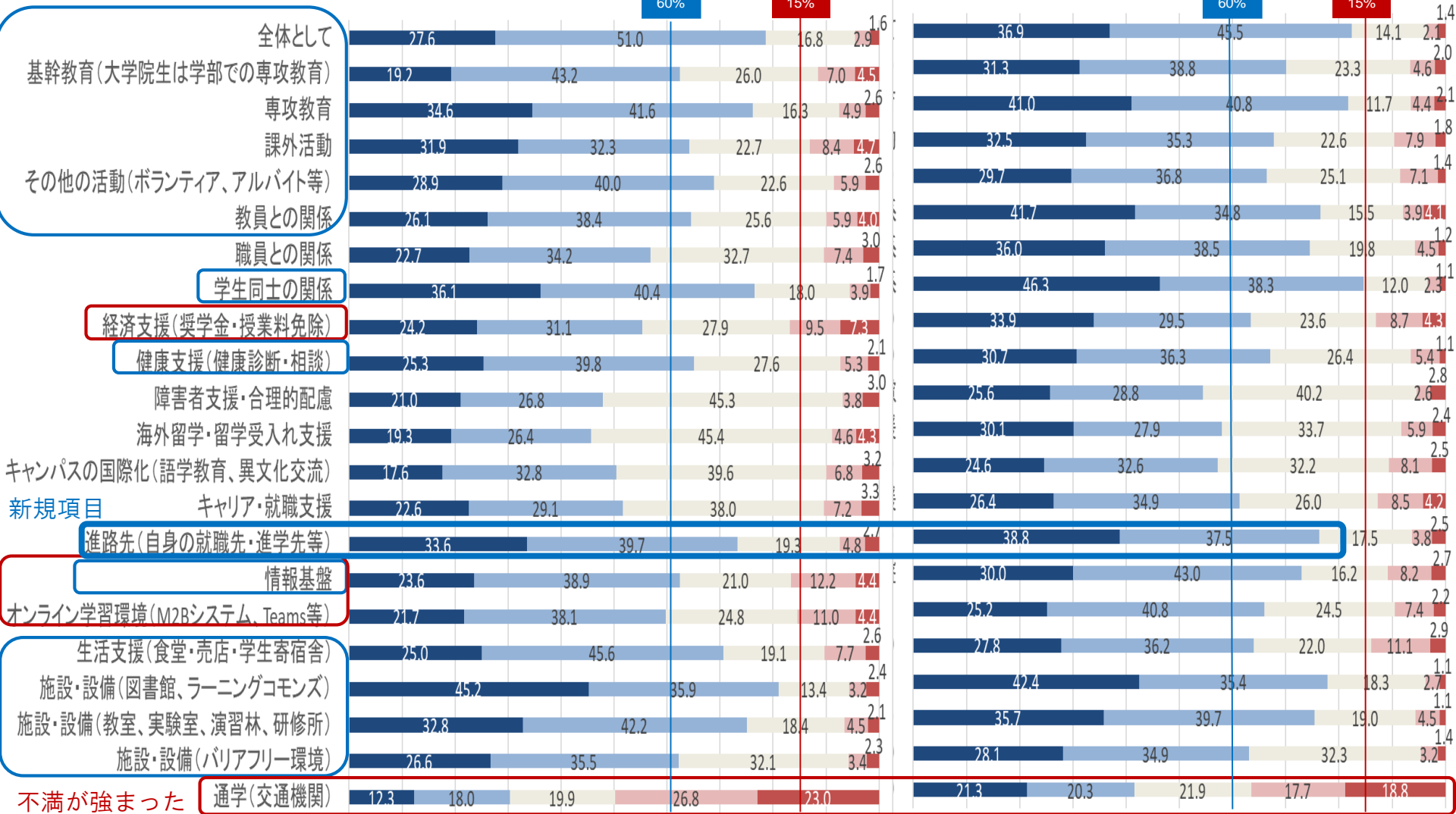
■ 大いに身に付いた ■ 身に付いた ■ どちらとも言えない ■ あまり身に付かなかった ■ 身に付かなかった

■ 大いに身に付いた ■ 身に付いた ■ どちらとも言えない ■ あまり身に付かなかった ■ 身に付かなかった

満足度

学部生(%)

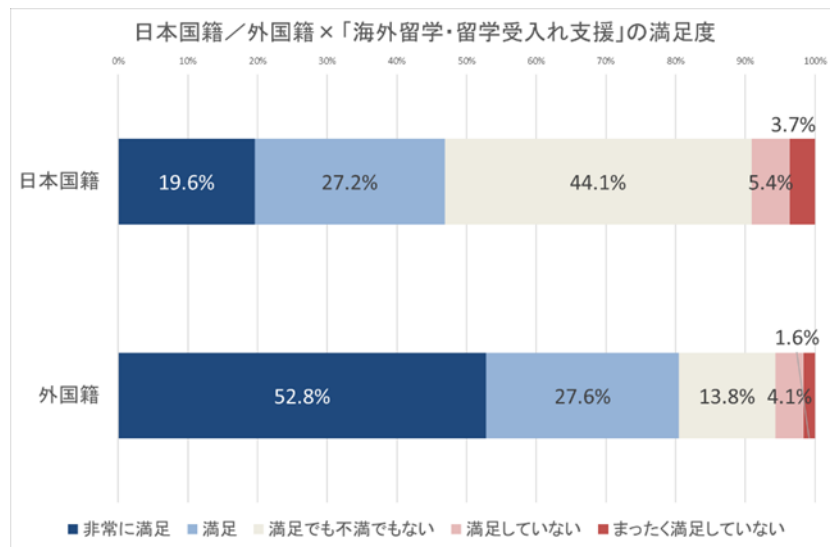
大学院生(%)



■非常に満足 ■満足 ■満足でも不満でもない ■満足していない ■まったく満足していない

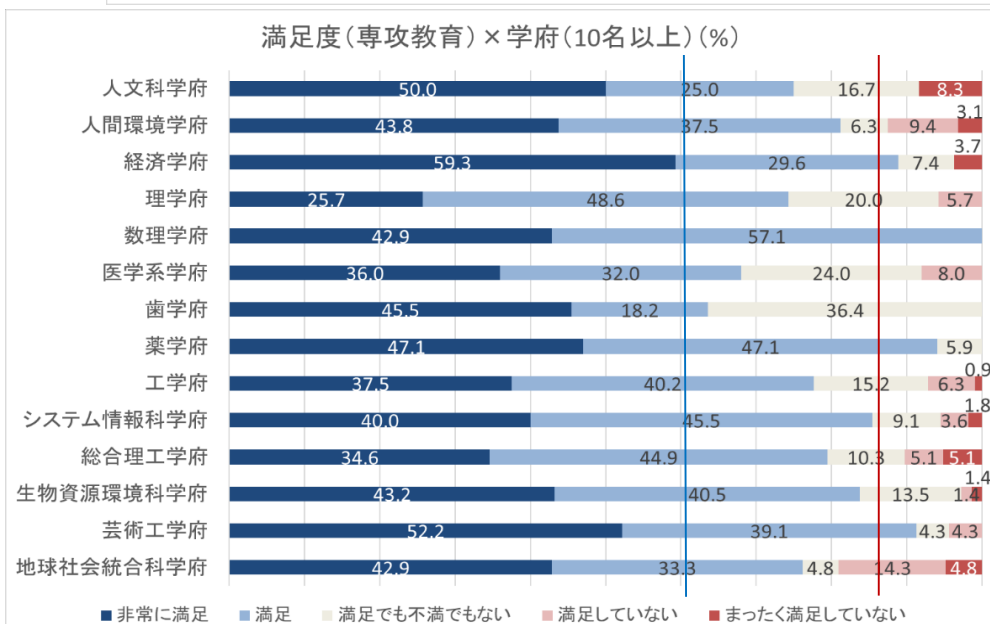
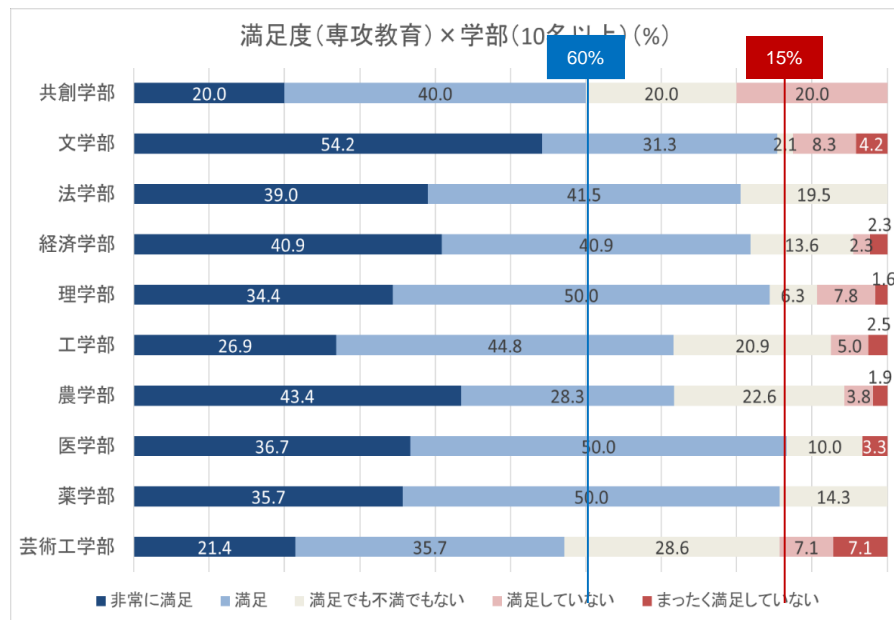
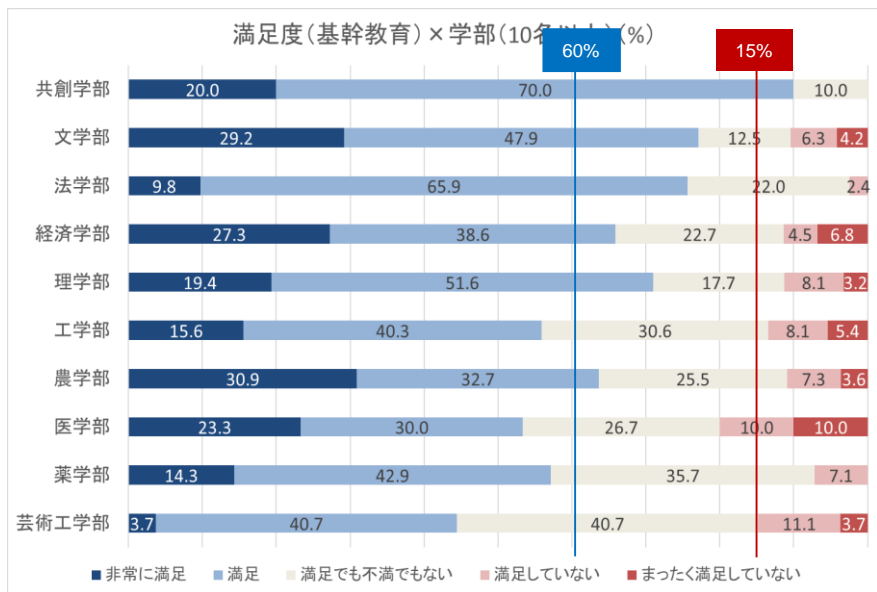
■満足でも不満でもない ■満足していない ■まったく満足していない

留学生（外国籍の学生）ほど、「海外留学・留学受入れ支援」に対する満足度が高い。

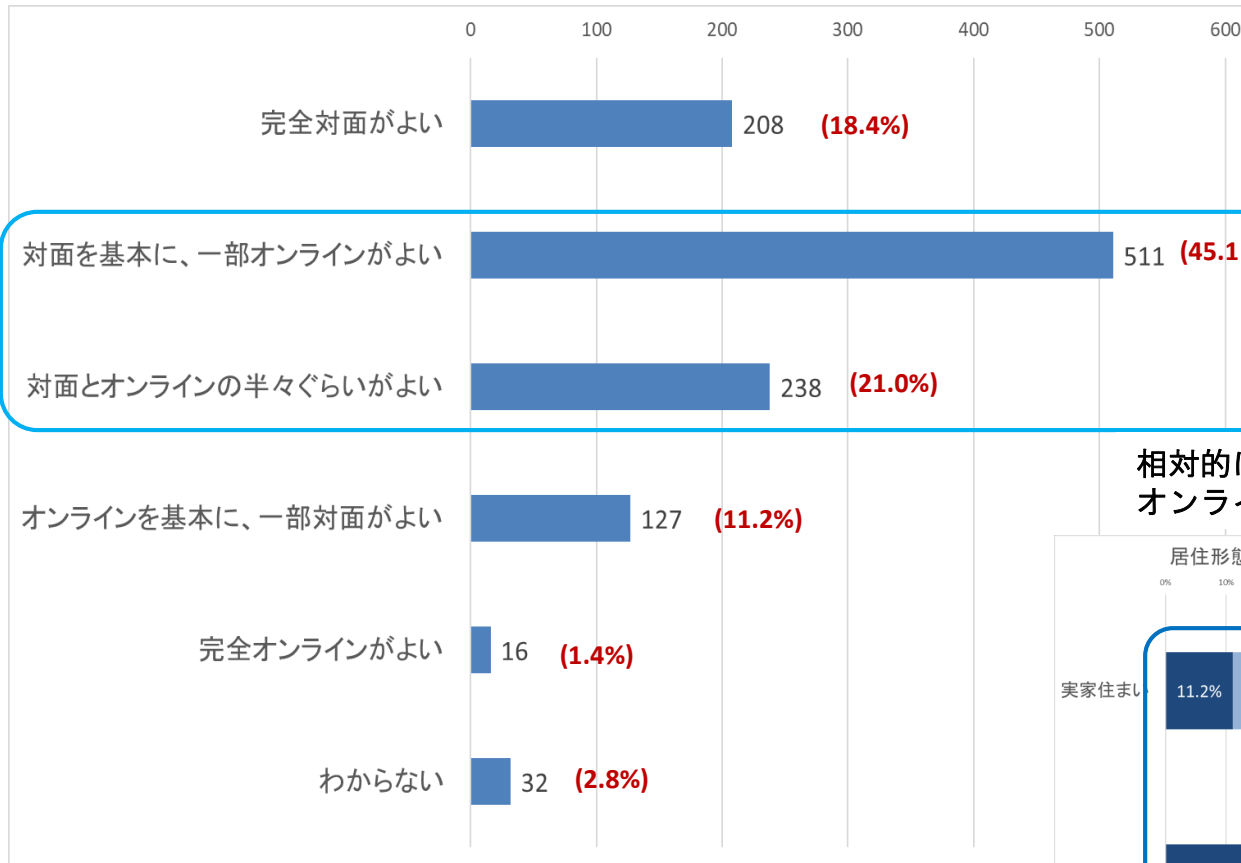


	N/Aの割合
日本国籍	30.7%
外国籍	14.6%

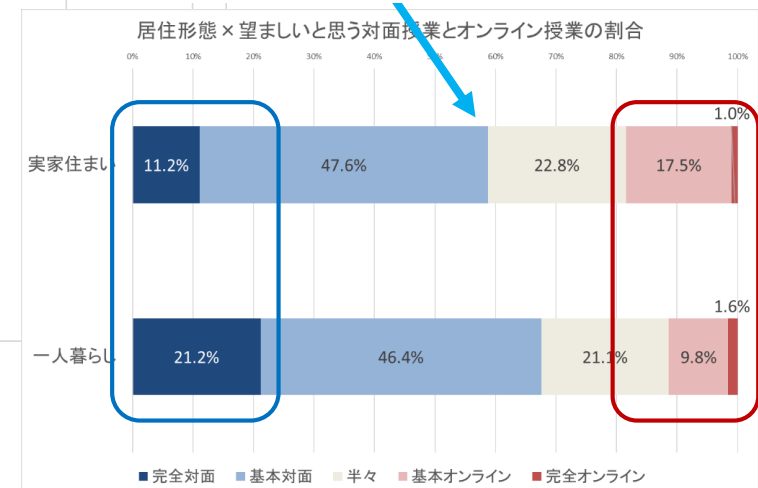
満足度（学部・学府別）



多くの学生は、対面とオンラインのミックスを望んでいる



相対的に、実家から通学している学生に、オンラインを希望する傾向がある。



令和5年度調査の変更点

- 第4期中期目標・中期計画（13-2）卒業生調査（ステークホルダー調査）を実施し、その結果に基づく学士課程教育の総合的評価と改善を行うこと。
 - 令和5年度プラン 令和4年度調査結果に基づき、学修成果、及び満足度の観点から、本学における学びと学生生活について総合的に評価する。特に、令和5年度に実施する学士課程教育プログラムの自己点検・評価（共創学部、工学部機械工学科）においては、ステークホルダー調査の結果を「プログラムの学修目標11の達成度評価」の根拠資料の一つとして採用し、必要に応じて改善計画を策定して推進する。



令和5年度調査質問紙の主な改訂（9月調査反映済み）

【基幹教育の学修成果（回答を学部学生に限定）】

（修整前）設問1. 学部学生は基幹教育、大学院生は学部の専攻教育を通して、次の知識・能力は、それぞれどの程度身に付いたとお考えでしょうか。他大学から編入・進学した方はN/Aを選択してください。

（修整後）設問1. 基幹教育科目を通して、次の知識・能力は、それぞれどの程度身に付いたとお考えでしょうか。学部学生のみお答えください。大学院生、及び他大学から編入した学部学生は、N/Aを選択してください。

【回答する課程・期間を特定】

（修整後）設問2. 専攻教育科目を通して、次の知識・能力は、それぞれどの程度身に付いたとお考えでしょうか。この度卒業・修了する課程（学士・修士・博士課程）についてお答えください。

（修整後）設問3. 本学における課外活動を通して、次の知識・能力は、それぞれどの程度身に付いたとお考えでしょうか。この度卒業・修了する課程（学士・修士・博士課程）の期間についてお答えください。（大学公認・非公認問わず）

※ 設問4（その他の活動）、設問5（居住形態）、設問6（満足度）、設問9（印象的だった経験）も同様。

令和5年度調査質問紙の主な改訂（9月調査反映済み）

【ダブルバーレル（1つの質問文で2つ以上のことを同時にたずねること）の解消】

- （修整前）自主的に学びを進めたり、他者と協働する力
- （修整後）自主的に学びを進める力
他者と協働する力

【Moodle設定の最適化】

- 単一回答項目（設問5（住居）、設問7（授業形態・オンライン）について、複数回答形式から単一回答形式に修整。

- ステークホルダー調査は、本学での学び・学生生活に対する総合的評価（基礎資料）の一部です。
- ・ 本部・各部局・部署において、それぞれの取組の改善に向けてご参照いただき、お役立てください。
- ・ また、調査の質の向上に向けて、引き続きご協力くださいますよう、お願いいたします。
- ・ 調査に関するご意見がございましたら、未来人材育成機構 (innovation@ueii.kyushu-u.ac.jp) にご連絡ください。